

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.2

国立国会図書館 月報



挿絵の夜明け —平成 29 年度企画展示「挿絵の世界」から
第 83 回 IFLA 年次大会
資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ



682 号 2018 年 2 月

国立 国会 図書館 月報

NO. 682
February 2018

CONTENTS

- 1 文部省刊行『百科全書 体操及戸外遊戯』
——明治12年のカーリング
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 4 挿絵の夜明け
——平成29年度企画展示「挿絵の世界」から
- 16 資料の世界の歩き方 変体仮名でめぐる資料あれこれ ②
歌に隠れた魚の名前
- 21 第83回IFLA年次大会
- 27 What's 書誌調整ふたたび 第11回
変わりゆく全国書誌データ提供
——使えるデータであるために
- 15 館内スコープ
企画展示「挿絵の世界」余話
- 30 本屋にない本
『日本のスヌメの歴史』
- 31 NDL TOPICS



表紙：
『新選京都名所 三木翠山創作版画 第2集』から
「金閣寺の雪」
三木翠山〔作〕 佐藤章太郎商店 編・刊
大正14(1925)年 1冊 44cm

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1014915/13> (モノクロ画像)

文部省刊行『百科全書 体操及戸外遊戯』 ——明治12年のカーリング

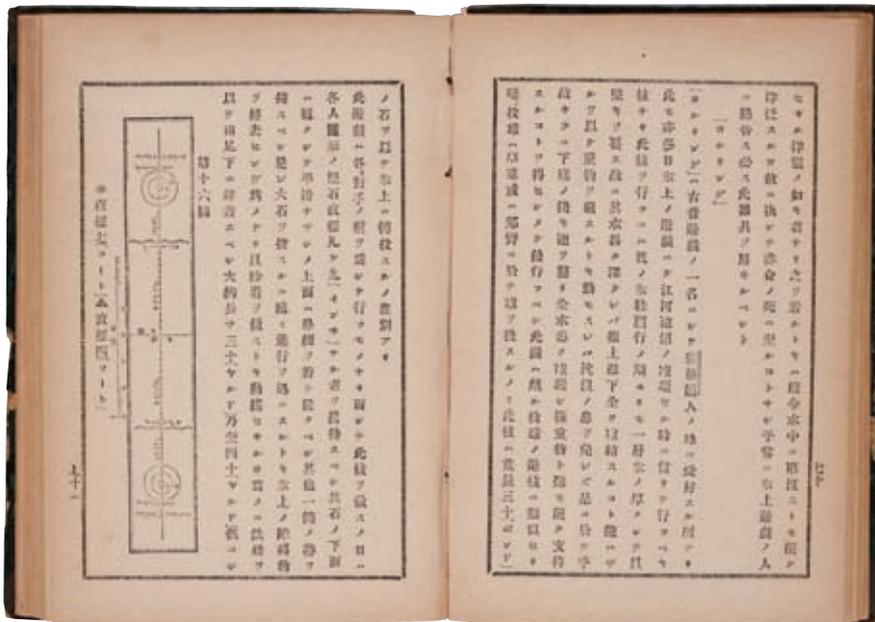
旗手 優



『百科全書 体操及戸外遊戯』
文部省刊 [明治12年]
<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/899223>
(モノクロ画像)

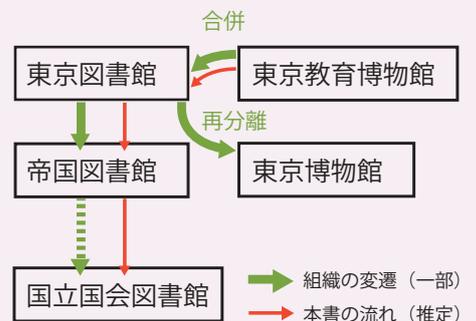
今月ご紹介するのは、1876（明治9）年から1883（明治16）年にかけて文部省監修のもと刊行された『百科全書』（以下、「文部省百科全書」）のうちの一冊、「体操及戸外遊戯」である。「文部省百科全書」の原書はスコットランドの兄弟、ウィリアム・チェンバースとロバート・チェンバースが発行した“Chambers's information for the people”¹⁾。その翻訳・刊行は、当時の文部省の一大プロジェクトとして、箕作麟祥、西村茂樹らを中心に、総計100人以上の翻訳者・校正者によって取り組まれた。関連した公文書や記録があまり残されておらず、翻訳及び刊行に関し、不明瞭な部分も多いが、西洋に関する知識が乏しい中での翻訳は厳しく、苦勞が絶えなかったようである。本書の主な訳者であるオランダ人のファン・カステール¹⁾についても、情報は断片的である。

本書は立ち方、前屈といった体の動かし方の解説に始まり、跳躍方法や走法、泳法のほか、クリケットやゴルフといったスポーツの説明に多くページを割いている。例えば69ページを開いてみると、氷上と思わしき場所で数人が箒のようなものを振り上げて競い合っている様子

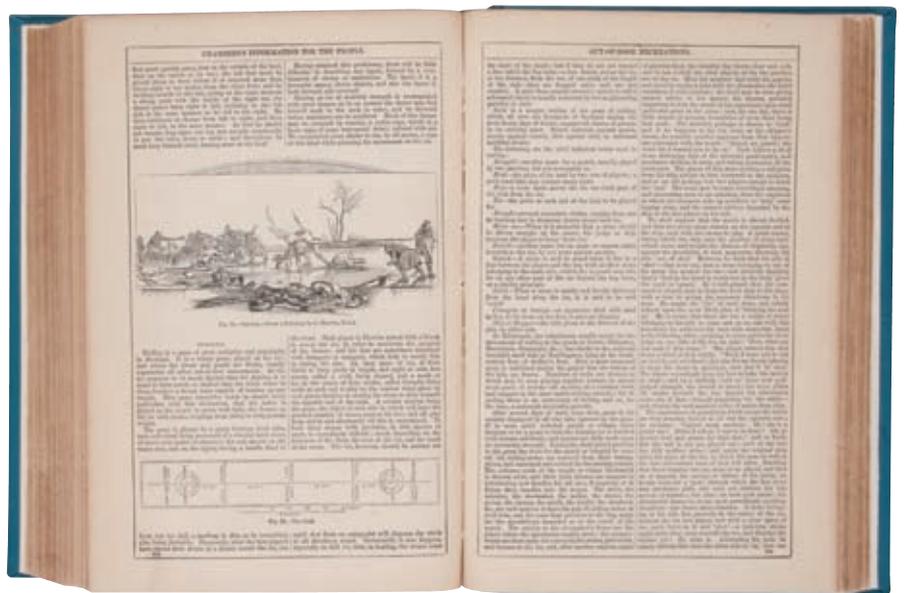
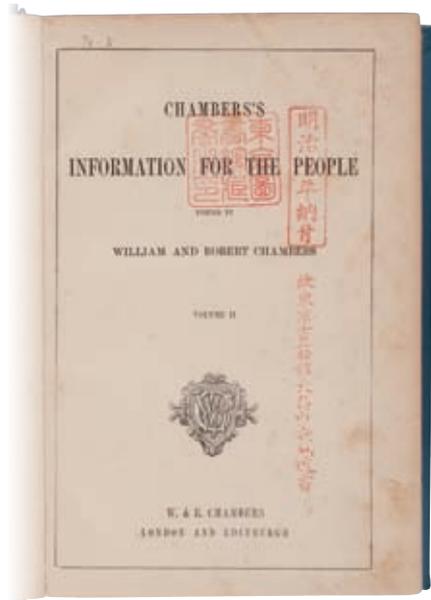


巻頭に押されている教育博物館印などから、本書は現在の国立科学博物館の源流である教育博物館に最初に所蔵されたと推察される。その後1885(明治18)年、教育博物館の後継である東京教育博物館は、国立国会図書館の源流の一つである帝国図書館の前身の東京図書館と合併したが、1889(明治22)年に東京図書館官制公布によって、東京教育博物館と帝国図書館に再分離した際に、本書を引き継いだものと思われる。その後の関東大震災で、東京教育博物館の後進である東京博物館は火災によって所蔵資料がほぼ全て失われてしまったが、帝国図書館は比較的軽微な損害で済み、この一点は現在まで世に残ることとなったようである。

参考：国立国会図書館『人と蔵書と蔵書印：国立国会図書館所蔵本から』雄松堂出版、2002.10<UM57-H2>



を捉えた図絵が目に残る。ここでは、「カルリング」という名称で、冬季オリンピック等でもおなじみの競技、カーリングについて概要から詳細なルールまで、本書の中で実に29ページにわたって紹介されているのである。原書が発行された十九世紀中頃は、ちょうどスコットランドでグランドカレドニアン・カーリングクラブが設立され(本書86ページにも言及がある)、競技ルールが確立されていくとともに、スコットランドからカナダやアメリカなどに普及していった時期でもあった。スコットランドでは主にローランド地方において、冬季に凍結した湖でのカーリングが盛んに行われ、本書でもその様子が描かれている。「厳冬寒威ノ間ニ在リテ気力ヲ奮興暢発セシメン為メノ遊楽トシ貴賤ノ別無ク皆此技ヲ為シテ以テ歓楽トセリ」といった姿を、維新をむかえて間もない頃の日本人はどのようにに思い描いたであろうか。原書の著者のチェンバーズがスコットランド出身ということもあってか、このように、カーリングは原書で大きく扱われ、それに比例して本書においても多数のページが割かれ、結果としてかなり詳しい形で日本に紹介されたようである。本書は翻訳書



Chambers's information for the people / edited by William and Robert Chambers.. New ed. W. & R. Chambers, [18--?] 2 v. ; 26 cm. <請求記号70-8>
 この2巻組の本を、項目ごとに92冊に分けて翻訳刊行したものが、「文部省百科全書」。底本となった原書の版には諸説あるが、これは当館が所蔵するうち同じ図が掲載されているもの。日本語のタイトル『百科全書』は百科事典を想起させるが、原書はそのタイトル通り、いわゆる百科事典 (Encyclopedia) ではない。

- 1 本書での表記は「漢加斯底爾」。ファン・カステールは来日後会社経営を行っていたが、横領が原因で破産宣告を受け、語学教師として各地を転々としていたのち、文部省刊行の翻訳書などの翻訳を手がけ、「文部省百科全書」では「体操及戸外遊戯」及び「戸内遊戯方」を担当した。

○参考文献

下村泰大編『西洋戸外遊戯法』泰盛館, 明18.3<特23-785>
 坪井玄道, 田中盛業編『戸外遊戯法: 一名・戸外運動法』金港堂, 明18.4<特41-839>
 『読売新聞』(東京縮刷版) 1936年12月16日朝刊4面、1936年12月18日朝刊4面、1937年1月17日朝刊4面<Z99-1050>
 『国立科学博物館百年史』国立科学博物館, 1977.11<M61-5>
 岸野雄三〔ほか〕編『最新スポーツ大事典』大修館書店, 1987.6<FS2-66>
 橋本美保『明治初期におけるアメリカ教育情報受容の研究』風間書房, 1998.3<FB14-G85>
 長沼美香子『訳された近代: 文部省『百科全書』の翻訳学』法政大学出版局, 2017.2<KF35-L73>



ということもあり、ひとくちに比較はできないものの、下村泰大編『西洋戸外遊戯法』や日本語で書かれた最初のサッカー解説書とされている坪井玄道・田中盛業編『戸外遊戯法…一名・戸外運動法』などで、野球やサッカーが紹介された1885(明治18)年の数年前であり、なかなか興味深い。なお、「文部省百科全書」はその後丸善からも出版されるなどしたが、カーリングは氷上の競技という制約もあつてか、日本では広まらなかった。1936(昭和11)年には日本カーリング倶楽部が結成され、翌年に第一回カーリング大会が山中湖で開かれた記録も残っているが、本格的に普及が始まるのは、1970年代を待つことになる。

スポーツという単語どころか、そのような概念も確立していなかった時代であるから、本書は「文部省百科全書」の事業の中でもなかなか苦心した一冊であろう。当時の日本人が、走法や泳法といった基本的な体の動かし方の西洋との違いをどう捉えたのか。また、ゴルフ、クリケット、カーリングといった競技をどのように認識したのか。思いを馳せてみるのも面白いかもしれない。

挿絵

—平成二九年度企画展示

「挿絵の世界」から



企画展示「挿絵の世界」は、東京本館においては10月10日～11月11日、関西館においては11月17日～12月9日まで開催しました。展示資料一覧を含むパンフレットを公開しています。
(<http://www.ndl.go.jp/event/exhibitions/exhibition2017.html>)

昨年開催した企画展示「挿絵の世界」は、明治の文明開化以降の書物を彩ってきた挿絵の変遷を、当館所蔵の国内刊行資料を用いてたどる試みでした。

その中から、出版文化と印刷技術が飛躍的に発展し、それによって表現方法が大きく進化していった、明治・大正期の挿絵を中心に取上げた「第一部 挿絵の確立——絵入新聞の流行から挿絵の地位確立まで」の内容をここにダイジェストで紹介します。

にしお
西尾

はつき
初紀
(利用者サービス部主任司書)

1 曲亭馬琴作・葛飾北斎画
『椿説弓張月. 28巻[4]』文化5
西村源六・平林庄五郎【特1-1947】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2557125/47>



2 山東京伝作・画
『一生入福兵衛幸』天明9・寛政元
榎本吉兵衛【208-533】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/8929292/11>

前史

挿絵という語が何時から使われ始めたのかは定かではありませんが、曲亭馬琴はすでに「し画」、「剽入画」と書いてさし多と読ませています^[1]。馬琴も執筆した読本は、文字通り文章が主体の読む本でしたが、出版の拠点が入江から江戸に移る頃、次に述べる草双紙と競うかのように、本文の丁の間に「挿」し込む挿絵に意匠を凝らし¹、巻頭口絵を設けたり、表紙も絵で飾るなど、ビジュアル色を深めていきます。

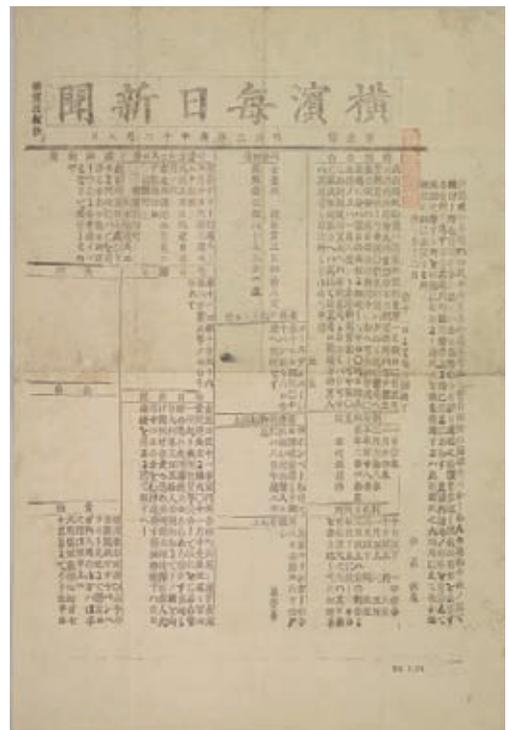
読本に対し絵本とも呼ばれた草双紙は、絵が主体で文字は余白に入れ、絵も文も同じ版木に彫り込みました²。元々、子どもに与えるお年玉玩具としての起源を持つため、毎年正月に一斉に発行されるという悠長な感覚の出版物でした。

幕末になって黒船来航など情勢が急を告げるようになると、海外で流通していた雑誌・新聞といった速報メディアの存在が注目され、それらを参考にした翻訳誌（紙）の試作、活版印刷機の輸入や日本語活字の鑄造が始まるなど、近代的な出版への下地が整っていきます。



4 大蘇(月岡)芳年[画] 錦絵版「郵便報知新聞」663号 明治8.8
錦昇堂 (『新聞附録東錦繪』)【234-85】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/9369960/71>

3 『横浜毎日新聞』1号 明治3.12.8
横浜活版社【WB43-78】



1 新聞挿絵の黎明期 錦絵新聞から絵入新聞へ

明治三(一八七〇)年創刊の、日本人の手に
よる初の日刊紙『横浜毎日新聞』は、活字組
を用いているため紙面は整然としています³
が、絵は一切ありません。文字はあらかじめ
活字を用意しておくことですぐに紙面を埋め
ることができましたが、絵はそのたびに版木
を彫らねばならないため、仕上がりに時差が
生じてしまったのです。文明開化によって絵
と文は切り離されたと言えるでしょう。

明治七(一八七四)〜八(一八七五)年ごろ、「錦
絵新聞(新聞錦絵とも呼ぶ)」が現れ、とも
に奇想の浮世絵師・歌川国芳の弟子で、最後
の浮世絵師と呼ばれた月岡芳年や落合芳幾ら
の扇情的な絵が衆目を集めます⁴。これは人
気が凋落した浮世絵が、新聞に掲載された美
談・奇談に題材を求めて起死回生を目論んだ
ものとみられ、多色刷りのため版の完成に時
間を要し、元記事の掲載から二〜六か月も経
てから世に出る、いわば「旧」聞であったの
で、二〜三年でブームは終わります。しかし、
新聞に絵を入れることの効果は認知され、こ
れ以降、絵入り読み仮名つきの庶民向け新聞
が次々と創刊され、浮世絵師たちは、その挿
絵担当社員の座に生活の糧を見出します。

2 水野年方の新聞小説挿絵

水野年方は月岡芳年の弟子で、師とともに『やまと新聞』の社員となります。明治二八（一八九五）年に上野に転居し当館の前身である帝国図書館（とその前身の東京図書館）に足を運んだようで、没後、蔵書、浮世絵などが寄贈され、当館の貴重なコレクションのひとつとなっています。その中には新聞小説の挿絵の下絵帖と刷り上がり見本（校合摺^{きょうごうずり}）帖が含まれており、下絵⁵では朱色の下書きで洋画の人体デッサンのように正確に描かれた手足の上に墨で衣服や顔を清書しており、校合摺⁶では彫りの工程を手分けしてスピードアップするため版を分割した名残りと思われる継ぎ目が確認できます。

5 水野年方[画]『水野年方下圖. 第2冊』
[書写年不明] 水野年方【201-269】

6 水野年方画『水野年方新聞小説挿絵. 26』
[出版年不明][出版者不明]【201-271】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/851730/26>
(モノクロ)



3 「金色夜叉」と挿絵

尾崎紅葉は「何も画の力を借りる程なら、筆で以てそれだけの事をやって見せるのが我々小説家の技倆だ、(中略)他日大に志を得たら、僕の小説にハ絵ハ入れない」と、挿絵を付けられるのを嫌いました。しかし代表作「金色夜叉」(明治三〇〜三五(一八九七〜一九〇二)年)は何度も連載中断を繰り返したため、新聞社の方針で、皮肉にも紅葉の口利きで入社した梶田半古の挿絵を付けられています⁷。しかし、紅葉の筆の遅さは、仕上がりを待つて絵に取り掛かる半古にも重圧となったようです。結局、「金色夜叉」は中断したまま未完に終わりましたが、画家たちのインスピレーションを掻き立てる筋立てであったため、紅葉没後に鏑木清方の『金色夜叉絵巻』をはじめいくつもの絵入り「金色夜叉」が刊行されます。



7 (尾崎)紅葉山人[著]・[梶田半古画]
「續々金色夜叉 續篇.(3)の2」『読売新聞』明治35.5.11 日就社【Z81-16】

4 洋風表現の導入と挫折

洋風表現を挿絵に導入した試みとして、坪内逍遙が『小説神髓』と並行して明治一八(一九(一八八五)〜一八八六年)に執筆した小説『当世書生気質』に、洋画家・長原止水が寄せたものが挙げられます⁸。しかしこの果敢な挑戦は「新らし過ぎて、どうも世間受けがしなかつた。あの頃は矢張り浮世絵流の挿絵でないと新聞でも喜ばれなかつたやうな有様で、残念であつたけれども二枚だけで中止³」させられます。かすれた輪郭線や陰影を示す斜線など、浮世絵にはない技法で描かれた絵は、版木を作る彫師をも戸惑わせ、見る者にはさらに訳の分からないものになってしまったのでしよう。挿絵は、浮世絵系挿絵画家の武内桂舟にバトンタッチされます。

『当世書生気質』初版本全一七号は和綴じ製本でしたが、ほどなく洋装一巻本が刊行されます⁴。判型が小さくなったため初版の版木を使い回すことができず、月岡芳年の弟子であった稲野年恒が元の絵の構図を活かして小さな目に描き直しました。その際、長原が描いた場面も浮世絵風⁹にされています。



8 坪内雄蔵(逍遙)著・[長原止水画]
『当世書生気質：一読三歎 第5号』明治18.8 晚青堂
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/887430/9> (モノクロ)

9 坪内雄蔵(逍遙)著・[稲野年恒画]
『当世書生気質』明治19 晚青堂【特10-807】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/887445/64> (モノクロ)



『当世書生気質：一読三歎』の全冊。左上ふたつは長原止水による5号と8号の挿絵。
左下ふたつは武内桂舟による6、7号の挿絵。



同じ号に掲載されたコマ絵

10 藤島武二 [画]
『明星 第1次』2巻5号 明治35.4-5
東京新誌社【雑8-28】



11 [竹久]夢二 [画]
「筒井筒」『中学世界』8巻8号 明治38.8 博文館【雑52-12】



5 雑誌挿絵の展開

洋画の紹介とコマ絵の流行

翻訳ものでない日本初の雑誌が登場するのは明治七年ですが、誌面デザインに革新をもたらしたのは明治三三（一九〇〇）年創刊の『明星』です。新聞形態でスタートした『明星』は、「画入月刊文学美術専門雑誌」の副題を掲げて西洋美術の紹介も行うようになり、あの長原止水も表紙・裏表紙などを手掛けますが、長原と同じ洋画家団体・白馬会に属した藤島武二が描いた表紙¹⁰は、当時ヨーロッパで流行していたアールヌーヴォー様式を模したもので、本文中でもその代表的画家・ミュシャの作品などをコマ絵（カット）として模倣しています。本文の内容と関係のない絵を散りばめて誌面を飾る、という発想の転換により、絵は曲がりなりに文字の速度に追い付きました。

コマ絵の多用による誌面のビジュアル化は瞬く間にライバル誌『ホトトギス』をはじめ他の文芸誌や学習誌にまで波及し、その需要を満たすため広く一般からの図案の募集が行われるようになり、おりからの私製はがき解禁を契機とする絵はがきブームから来る図案需要とも相まって、竹久夢二¹¹ら新たな才能が頭角を現します。



12 木下尚江著・戸張孤雁画
『乞食』明治41 昭文堂【32-360】

6 印刷技術の革新…写真製版

コマ絵は使い回しがきくうえに、版木を再活用して画集にまとめることもできましたが、大正一二（一九二三）年の関東大震災で木版印刷の技術も灰燼に帰します。これに替わって挿絵の印刷の主流となったのが写真製版技術です。

元々は陸軍参謀本部陸地測量部が、実戦に不可欠な地形図の忠実な複製のために、明治一〇年代から研究を重ねてきたもので、二〇年代には実用化され、日清戦争のときには写真の使用を呼び物にした報道雑誌も登場し普及していきます。

写真製版の導入により、拡大縮小が自由になり、繊細なグラデーション¹²が表現できるようになったうえ、何よりも彫りの工程から解放されることで、絵にもやつと文字と互角の迅速性が備わったのです。

7 ビアズリーの衝撃

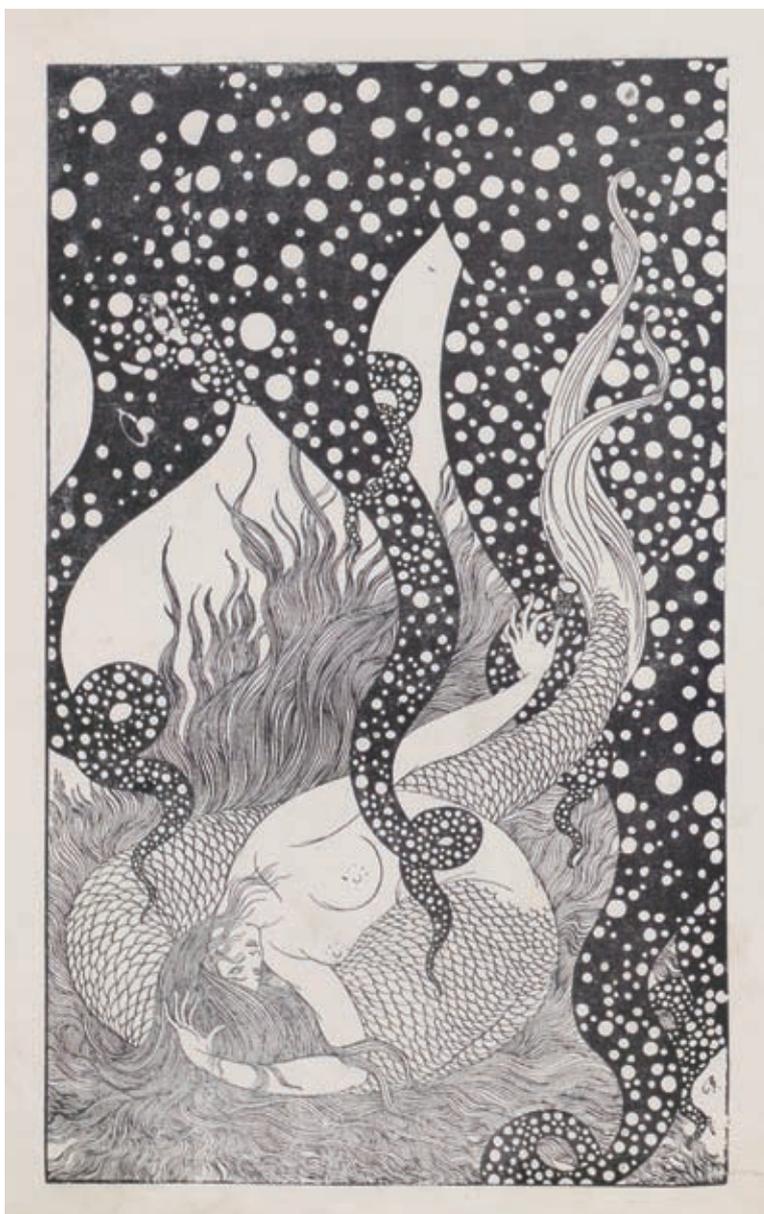
明治四三（一九一〇）年創刊の雑誌『白樺』も『明星』同様に西洋美術の紹介を行いましたが、その中で柳宗悦が二度にわたって紹介したイギリスの挿絵画家、ビアズリー¹³の黒と白、緻密な図柄と大胆な空白の生み出す強烈なコントラストのペン画は、新しい印刷技術に相応しい表現を模索していた日本の挿絵画家たちに大きなインパクトを与えました¹⁴。

ビアズリー画集を手にとって、のちに和製ビアズリーとも称された岩田専太郎は「これだこれだ、自分の求めていたものもこれだ」と狂喜し、一方、資生堂意匠部でアールデコ調のデザインを次々と世に送ることになる山名文夫^{あやぶ}は、「この本は見ではならない本だ。自分というものが死んでしまう。夢二の絵のときと同じように、またしてもビアズレイの分身になるにちがいない。」と畏怖しています。



¹³ ビアーズレ（ビアズリー）挿画
「ヴィナスとタンホイゼル」『白樺』2巻9号
明治44.9 洛陽堂【雑8-49】

¹⁴ 谷崎潤一郎作・水島爾保布画
『人魚の嘆き・魔術師』大正8 春陽堂【331-133】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/946081/23>
(モノクロ)





15 永井壮吉(荷風)著・木村莊八挿画
『濠東綺譚 小説』昭和12 岩波書店【KH385-H5】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1899690/29>



16 邦枝完二著・小村雪岱絵
『おせん 絵入草紙』昭和9 新小説社【656-66】
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1234571/43>



8 洋画家たちの台頭

写真製版により原画のタッチを損ねず印刷できるようになると、著名な洋画家に挿絵を依頼することも可能となって¹⁵、新聞小説は作家名と画家名の二枚看板を掲げるようになります。作家と画家のコンプの中からは、他の組み合わせが想像できない以心伝心の関係も築かれていきます¹⁶。

挿絵を手掛ける画家が増えると、美術団体の中には展覧会場に「挿絵室」を設けるところも現れます。ところが、中里介石の『大菩薩峠』の挿絵を担当した、彫刻家兼画家で、ちに日本挿絵画家協会の会長も務める石井鶴三^{ごう}が、昭和九(一九三四)年、その挿絵原画を美術作品として出展し、さらに画集として出版するに及ぶと、「絵そのもの」「著作権(引用者注)も著作権法の当然の解釈により本文に帰属すべきもの」と主張する介石が石井を告訴する事態に発展します。結局、告訴は取り下げられ、法的解釈は示されませんでした。この事件は新聞・雑誌紙上で論争を巻き起こし、挿絵の創造性・芸術性を一般の人々にも認知させる契機となりました。

終章 第2、第3の技術革新と

人気挿絵画家の時代

明治三〇年代、赤・青・黄の三原色と黒のインクだけで自在に色を産み出す色分解の原理によるカラー印刷が実用化。大正期に入ると、ローラーが用紙を高速で送りながらインクを擦りつけるオフセット印刷機が導入され、カラー印刷の雑誌が大量に発行されて、日本中に行き渡るようになります。

そしてこの大衆メディアを舞台に、少年少女たちのあこがれ高島華宵¹⁷や、生涯に六万枚もの挿絵を描いたという岩田専太郎など、人気挿絵画家が活躍する時代が到来するのです。



17 高島華宵

『少年俱樂部』9巻3号 大正11.3 大日本雄弁会講談社
【Z32-387】

- (1) 高木元「江戸読本に見る造本意識」『アジア遊学』(109), pp.113-124 2008.4
- (2) 星月夜「文壇雑俎 紅葉氏の新聞小説論」『読売新聞』明治32年2月13日 月曜附録2面
- (3) 坪内逍遙「附録6 作者餘談」『明治文学名著全集 第1巻』pp.附録36-40 1926
- (4) 横書きでの帳簿付けを普及させるため明治六年に伝来した洋製本の技術が、設備が整い本格的に和装本を駆逐していくのは明治二〇年代になってから。
- (5) 夢二の初の画集もコマ絵版木の再利用によるもので、高浜虚子も『ホトギス』掲載済みのコマ絵を再録した画集『さし糸』を出版した。
- (6) 川口松太郎「極端に内面の悪い奴」『アサヒグラフ』昭和49年10月30日臨時増刊 pp.86-87
- (7) 山名文夫「一冊の本「ピアズレイ画集」恐ろしく愛する20年遠ざけた禁断の書」『朝日新聞』昭和37年1月4日夕刊3面
- (8) 介山居士「『大菩薩峠』の著作侵害：「石井鶴三挿絵集第一巻」の再検討」『隣人之友』(93), pp.35-50 1934.9

○参考文献

- (全体)
木村荘八「挿絵五十年史—錦木清方先生に捧ぐ—」『サンデー毎日』昭和26年3月25日号, pp.16-19 毎日新聞出版 1951
日本書籍出版協会 編『日本出版百年史年表』日本書籍出版協会 1968
長瀬宝『イラスト歳時記：新聞イラスト百年史』グラフィック社 1971
『特集さしえの黄金時代』『芸術生活』27(8), pp.7-127 芸術生活社 1974.8
『臨時増刊さしえマンガに見る昭和50年—榊島勝一からダメおやじまで』『アサヒグラフ』(2665) 朝日新聞社 1974.10.30
匠秀夫『近代日本の美術と文学：明治大正昭和の挿絵』木耳社 1979
『名作挿絵全集(全10巻)』平凡社 1979-1981
尾崎秀樹『さしえの50年』平凡社 1987
青木茂「明治期挿絵美術の素描」『美学・美術史学科報』(24), pp.1-15 跡見学園女子大学美学美術史学科 1996.3
匠秀夫『日本の近代美術と文学：挿絵史とその周辺』沖積舎 2004
川戸道昭, 榊原貴教 編著『図説絵本・挿絵大事典(全3巻)』大空社 2008
佐藤露子『日本画家人名事典』日本図書センター 2011

(1章)

- 本田康雄『新聞小説の誕生』平凡社 1998
千葉市美術館 編『文明開化の挿絵新聞：東京日々新聞・郵便報知新聞全作品』国書刊行会 2008

(2章)

- 石山洋「水野年方の新聞小説下絵帖」『国立国会図書館月報』

(202), pp.26-27 国立国会図書館 1978.1

(3章)

- 榎田満文「『金色夜叉』と挿絵無用論」『文藝論叢』(16), pp.48-53 文教大学女子短期大学部文芸科 1980.3

(4章)

- 中島国彦「一読三歎当世書生気質」の風景—その挿絵・視線・方法をめぐって『国文学研究』(78), pp.14-22 早稲田大学国文学会 1982.10

(5章)

- 匠秀夫「雑誌『明星』と近代美術」『札幌大谷短期大学紀要』(2), pp.41-65 札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部 1964
細野正信『竹久夢二と抒情画家たち』講談社 1987
紅野謙介「『文章世界』から『文章世界』へ—博文館・投書雑誌における言説編制」『文学』4(2), p.12-23 岩波書店 1993.4

(6章)

- 松本品子『挿絵画家英明：鱒崎英明伝』スカイア 2001
凸版印刷株式会社印刷博物誌編集委員会 編『印刷博物誌』凸版印刷 2001

(7章)

- 小野高裕, 西村美香, 明尾圭造『モダニズム出版社の光芒：プラトン社の一九二〇年代』淡交社 2000
ピアズリー [画], 河村錠一郎 監修『ピアズリーと日本 = Aubrey Beardsley and Japan』アルティス c2015

(8章)

- 松本和也「同時代のなかの『挿絵事件』：『大菩薩峠』(作・中里介山、画・石井鶴三)と挿絵著作権」『文芸研究：文芸・言語・思想』(180), pp.44-56, 日本文芸研究会 2015.9

Q. ショートショートの様様と言われ、SF作品『ポッコちゃん』を執筆したのは誰でしょう？

A. 星新一

Q. では、その『ポッコちゃん』をはじめ、3000点以上の星新一作品に挿絵を描いた人は？

A. ……

星新一は「ご存じでも、この問題にはむむつとなる方が多いのではないのでしょうか。正解は真鍋博です。当館所蔵の資料からとっておきの挿絵を約90点展示した企画展示「挿絵の世界」で、私は展示委員の一人として資料の選定と解題の執筆を担当しました。

普段、本を読んでいると何気なく目に入ってくる挿絵ですが、挿絵そのものや挿絵画家に着目する機会はあまりないのではないのでしょうか。私も担当ジャンルがSFに決まり、豊富なラインナップを頭に浮かべて歓喜したのも束の間、「挿絵画家」というキーワードを思い出してふと我に返りました。SFの挿絵画家。SFの挿絵画家……誰？

『スターウォーズ 帝国の逆襲』の国際版ポスターを、生頼範義おつひいという日本人の挿絵画家が描いていたってご存知でしたか？ 画家部門の長者番付で横山大観より上位にいた小松崎茂はどうでしょう？

『銀河鉄道999』で有名な松本零士が、70年代のSF小説に挿絵を描いていたなんて……。

自分の無知を恨みなくなるほどの猛勉強が始まりました。雑誌を求めては新館書庫に、図書を求めては本館書庫にと行ったり来たり、階段を上へ下へと、書庫の中を駆けずり回る毎日です。1冊見つける度に見栄えはどうか、近くに関連資料はないかを確認し、展示資料が決まると今度は解題執筆用の資料集めに繰り出します。時間が許すぎりぎりまで、限られた展示ケースにどう展示すべきなのかを必死に模索し続けました。

会期が終わってみればあつという間でしたが、アンケートでは多くの暖かいコメントをいただき、ありがたい気持ちでいっぱいです。本当はもっともっとお見せしたい資料が沢山ありましたので、次の機会があれば、再び書庫を東奔西走しようかと思っています。

定期的に開催している企画展示、今年は開館70周年を記念した、新たな展示を予定しています。職員が本の海に潜りながら制作しているこのイベント、開催の折には是非、お越しいただければ幸いです。

〔図書館資料整備課雑誌資料係 雑誌の書庫太郎〕

企画展示 「挿絵の世界」余話



開催直前。展示ケースに資料を入れて最終確認中。

[広重魚尽]より
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1306182>

資料の世界の歩き方
変体仮名でめぐる資料あれこれ 2



歌に隠れた魚の名前

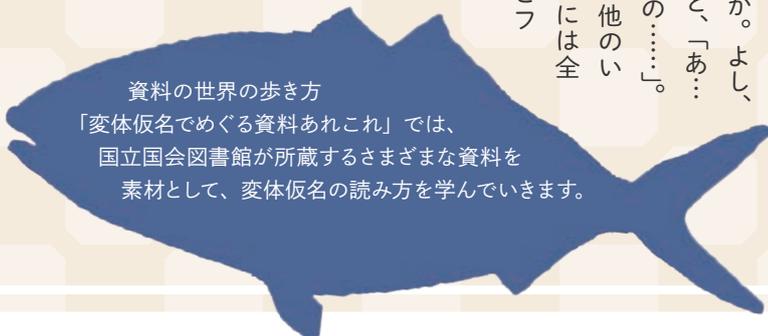
藤田 壮介

うん。
から、順番に読んでいこうか？
「数寿垣」以外は全部ひらがなだ
その次に書かれている作者名の
後ろから2行目の「梅の折枝」と、
添えられた文字を読んでいこう。
そうだよ。じゃあ今回はこの絵に

グが隠されているの？
部は読めないや。本当にイナダとフ
くつかの字はわかるけど、オイラには全
だめだ、前回教わった「か」とか他のい
か…な…を…く…つ…も…く梅の……。
ちよつと確かめてみるぞ。えーつと、「あ…
なんだ、そこにヒントがあったのか。よし、
美味しそうだね。

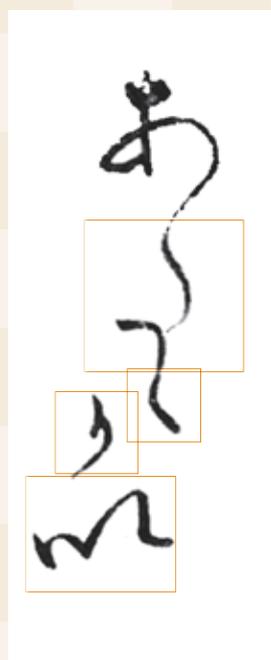
美味しそうだね。
ダが大きくなったブリかもしれないね。寒ブリ、
ど、君の言う通り、季節のことを考えると、イナ
ているから、素直に見るとイナダかなとも思うけ
左上の狂歌にフグのほかにイナダの名前が隠され

なんだらうけど。
と梅が咲いたりフグが美味しい時期に美味しい魚
みいだな。うくん、奥の魚はなんだろう？ きつ
あつ、お魚だ！ 手前に描かれているのは、フグ



資料の世界の歩き方
「変体仮名でめぐる資料あれこれ」では、
国立国会図書館が所蔵するさまざまな資料を
素材として、変体仮名の読み方を学んでいきます。

多
、
可
以



まずは右端から。一文字目の「あ」は読めたみたいだけど、そのまま筆がつながるとところに二文字分あるんだ。

下の方の字は「て」？

残念。「て」にも見えるけど、その間に文字の区切りがあるんだよ。一番下の点一つ分が「ゝ」という文字で、踊り字と言って上のひらがなを繰り返す記号なんだ。福沢諭吉の『学問のすゝめ』などで目にするね。それで「あ」と「ゝ」の間にあるのが「た」。

えっ、これが「た」なの？

そうなんだ。普段使っている「た」は「太」という漢字からできたひらがななんだけど、ここの「た」は「多」という漢字が と変化してこの形になったんだよ。そして「ゝ」の左にある文字は、君の言うとおり、前回も出てきた「か」だね。

「か」の下は「以」っていう漢字に似ているからひよっとして「い」？

その通り、なかなか勘がいいね。

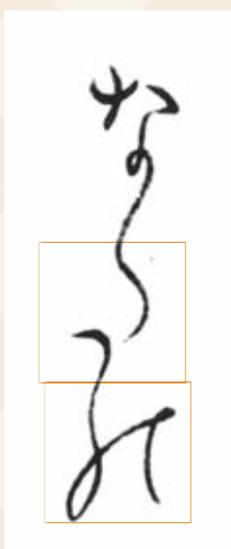


グレーの文字は復習だよ！

「た」の切れ目が難しいぞ



多
能



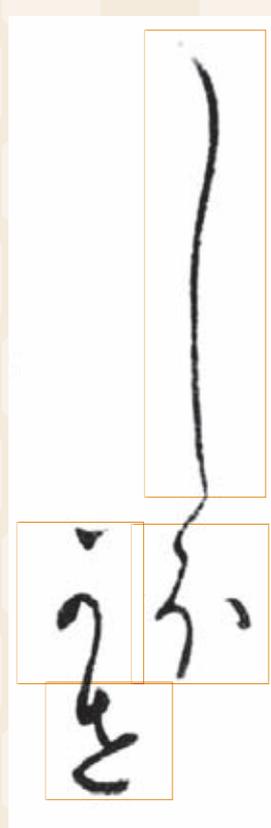
えへん！

次の行の「な」の下はさっき出てきたけど覚えてる？
え？ あ、そうか。これも「た」だね。その下は、ちょっと「み」にも似てるけどなんだろう？

これは「の」という字だね。もともなかった漢字は「能」で、 と変化したんだ。この「の」はとてもよく使われるから覚えておくと良いよ。

じゃあ覚えておいてあげるよ。その隣の縦長のところは何文字あるの？

之本



この筆がつかっていている部分で二文字なんだ。今の活字と違って、文字の縦の長さも変化するから、最初は分かりにくいかもね。縦に長くなっているところが、最後にちよっただけ曲がっていて「し」。もともとは「之」という漢字だったんだ。「之」には「し」という読みがあるんだよ。その下は「ほ」。「本」が **か** ↓ **や** と変化していったと思うとなんとなく面影があるよね。



「ほ」の左はなに？「可」って漢字に似ているけど、さっきの「か」とは形が違うし…
形はさつきとちよつと違うけど、これも「か」だよ。やっぱり「可」が崩れてできた変体仮名なんだ。君が覚えた「か」よりも省略のされ方が少ないパターンだ。
え〜。同じ漢字が元になっても、変体仮名の形が違うなんてことがあるの？ なんかズルくない？
ズルくはないよ。もともと漢字を手で書くときに崩れたのがひらがななんだから、その崩れ方が書くときによって異なるのも当たり前じゃないかな。君だって自分が字を書くときに、完全に同じ形しか書かないわけじゃないだろう？

可 世

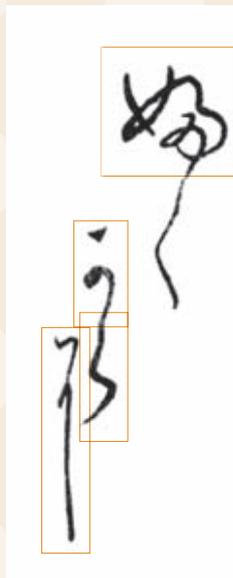
(世)



文字を書いています。
筆の妖精だからね。

そう言われればそうだなあ。ちよつと髪の毛が引っかかって変な形の字になっちゃったりもするし。おなじ漢字が元になった変体仮名でも違う形もあるってことを覚えておこう。下の字と続けて読むと「かを」か。
確かに「を」にも見えるね。でも残念ながら下の字は「せ」なんだ。元になったのは「世」という漢字で、その異体字の **せ** から変化したと思うとこんな感じになりそうでしょう？
そうなの？ なんか紛らわしいなあ。次の行の「く」の上はなに？ 「め」の最後がゴチャゴチャしたような字だけ。

婦
可
良
耳



たしかにこの字は元の漢字が女偏だから、「め」に似ていると思うのは成り立ちから言っても正しいね。元の字は「婦」で、「ふ」だよ。

「く」の左はまた「か」だね。その下は「く」にも見えるけど、最後のところで右から左にぐっと曲がるから、ひよっとして「ら」？

すごいじゃないか。そのとおり。「から」のすぐ左も、ちょっと縦長だけどこれで一文字で「に」。元の漢字は「耳」だよ。「耳」？「みみ」がなんで「に」なの？

呉音と呼ばれる、古くに日本に伝わった読み方だと「耳」は「に」と読まれるんだよ。さあ、これで上の句が読み終わったね。「あたゝかい なたのしほかせ ふくからに」。昔は濁点を使わないことも多いから、濁点を補って漢字を当てはめると「暖かい灘の潮風吹くからに」かな。さあ、次の七音はもう読める字も多いんじゃない？

濁点と濁音

濁音を表わす際に必ず濁点をつける、という表記法は、それほど昔から普及していたわけではありません。文字を書く時に清音と濁音を書き分ける習慣は、明治以後の教育によって少しずつ定着していったもので、それまでは濁音であっても濁点を用いない表記も広く行われていました。そのため、今回の資料のように、文脈を判断して必要な場合には、読み手が濁点を補って読む必要があります。

ただ、使用されない場合が多く見られるとはいえ、濁点は江戸時代以前から使われることもありました。『江戸名所はんじもの』では、4枚の葉にそれぞれ濁点をつけて「芝」を表わしており、江戸時代には濁点をつけることによる音の変化は広く認識されていたようです。



『江戸名所はんじもの』(部分)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1304030>

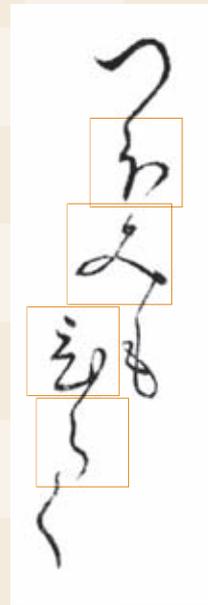


なたのしほかせ？



なたのしほかせ？

本美飛良



えーっと、「つほ…も…らく」。残るはあと二文字だ！

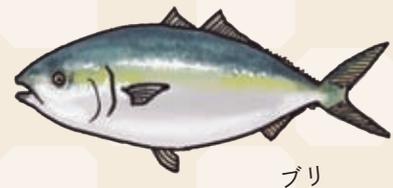
そうそう、もうちよつと。わからない二文字の上の方は「み」で元の漢字は「美」、下は「ひ」で元の漢字は「飛」だよ。

「ひ」はなかなか想像がつかないなあ。でもこれで全部だね。「つほみもひらく」…「蕾も開く」か。つなげて読むと「暖かい灘の潮風吹くからに蕾も開く梅の折枝」だ。

やったね、お疲れさま。

うん、これでスッキリしたよ。あれ、でも梅は出てくるけどイナダとフグはどこ？

気が付かないかな、「あたゝかいなたのしほかせふくからに」本ただ、隠れてた！ そういうことなんだ!! 浮世絵は絵だけでも綺麗だけど、書かれている文字が読めるともつと面白いね。



ブリ



イナダ



ワカシ

イナダは出世魚。大きくなるとブリと呼ばれるよ。



(絵・正保五月)

次回予告

3月号では、国立国会図書館が所蔵するかるたのような錦絵を素材として、変体仮名の読み方を学んでいきます。

『教訓いろはたとゑ』より
「と・饒間宅兵衛／ち・梅王女房はる」
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1311234>



がんばるぞ！



第83回



IFLA年次大会

2017(平成29)年8月19日(土)～25日(金)

ヴロツワフ(ポーランド)



世界中の図書館が協力しあい、共通の問題を解決し、図書館の未来を切り開いていく存在、それが国際図書館連盟、通称「IFLA」です。

毎年開催されるIFLA年次大会では、世界中から多くの図書館員が集まり、図書館に関する多くの課題について最新の知見を情報交換し、議論を交わします。

今年、ポーランド第四の都市、美しく文化的な街ヴロツワフで開催されました。大会のメイン会場は「百周年記念ホール」。1913年建築の世界遺産です。

世界140か国、1300以上の機関から、約3100人が参加し、期間中は、分科会等による多数の公開セッションのほか、各国図書館団体や関連企業等が出展する展示会や、ポスターセッション等が行われました。年次大会に合わせ、国立図書館長会議(CDNL)や、関連する行事も開催されます。

国立国会図書館(NDL)は、今年も派遣団を組織し、30以上の委員会、分科会等に出席し、議論や発表などを行いました。

私にとっては初めての参加でしたが、現地で図書館員が国や地域、館種を越えて協力し、積極的に社会に向けて発言・行動することを通して、図書館や図書館員の社会的な意義を自ら定義していくという活気に満ちた空気を感じることができたのは大きな収穫でした。

今回の記事では、NDLの職員が委員として活躍する分科会のテーマなどを中心に、職員が感じたことの端を紹介します。

(総務部支部図書館・協力課 熊倉優子)

百周年記念ホール





国立図書館長会議（CDNL）は、44 か国から 81 名が参加。明るく開放的な四円蓋展示館で行われました。

国立図書館



団長・羽入佐和子
(館長)

今年の国立図書館長会議のテーマは「大陸やコミュニティを繋ぐ国立図書館（National Libraries Connecting Continents and Communities）」でした。図書館資料のデジタル化の状況から、データの標準化や共有化について議論されたのは当然ですが、図書館にとって「繋ぐ」とは何を意味するかを改めて考えさせられました。

図書館とは、文化や歴史や価値観を異にする人々にとって、お互いを理解し合う資源の保存と供給源としての役割も担っているのかもしれない。

現在 IFLA では、図書館の将来像プロジェクトともいえる“IFLA Global Vision”を実施しています。これはグローバル化の中での図書館の本質的な在り方を問う企画で、世界各国から意見を聴取しています。今回の大会でも、CDNL で参加者の意見を問う機会がもたれました。そこでの回答内容で印象的だったのは、変化を恐れないことや孤立しないことの重要性が強く意識されていることでした。



カタール国立図書館のオープニングのお祝い動画にコメントを求められて、急遽出演。



IFLA 会長（当時）シーダーさん、現会長ベレス・サルメロンさん、CDNL 議長（当時）フィンランド国立図書館長エクホルムさん、IFLA 事務局長ライトナーさんと。

ヴロツワフ市内





IFLA 本会合に先立ち、ポーランドの首都ワルシャワでプレコンファレンス。ポーランド議会上院の議場を使つての会議です。(議会図書館分科会プレコンファレンス)



萩原真由美
(調査及び立法考査局財政金融課)

中南米やアフリカからの報告も比較的多く、自分にとっては馴染みの薄い地域における議会関係者の画期的な取組を知ることができました。

意見交換の場での「議員が調査員の話に耳を傾けてくれるよう、日常的に信頼関係を築くことが大切だ」という指摘も印象的でした。

奥山裕之

(調査及び立法考査局調査企画課長)
議会のための図書館・調査サービス
分科会常任委員



プレコンファレンスでは、NDL で実施している「政策セミナー」について発表する機会を得ました。各国からの報告やその後の討論を通じて、議会のための調査サービスにおいても、調査の成果をいかに発信していくかが世界共通の課題になっていると感じました。

ワークショップ、グループディスカッション等では、不偏不党であるべき調査サービスで、自らの見解を述べるのがどこまで可能かというテーマが話題になり、多くの参加者と議論したことも強く印象に残っています。



ヴロツワフと私

私は大学でポーランド語を専攻していたので、ポーランド語を仕事で使うのが学生時代の夢でした。ヴロツワフは1年間のポーランド留学の締めくくりの小旅行で訪れた街です。今回、このような貴重な機会を得て、再訪できたことを大変嬉しく思います。17年振りのヴロツワフは若い世代のエネルギーに溢れ、居心地のいい映画館や劇場のある、文化的な街になっていました。(熊倉)



児童・ヤングアダルト



中島尚子
(国際子ども図書館企画協力課)
児童・ヤングアダルト
分科会常任委員

今年から常任委員を務めています。

単に本を貸し出し、読書活動を推進しているだけという図書館は少なく、特にヨーロッパ各国では、移民受入れによって生じている厳しい状況に対応し、基本的人権として情報へのアクセスを保障すべく、ICT 技術習得のための講習会や妊婦教室、食育教室など、さまざまなプログラムが提供されている現実を知りました。

また、日本のマンガ・アニメの普及度合いと高い評価にも驚きました。ヴロツワフ市立図書館の分館のひとつである、ヴロツワフ中央駅図書館では、500 冊の日本のマンガが所蔵されているとのこと。入口から入ってすぐの一番目立つ場所に排架されていました。



児童・ヤングアダルト分科会の交流会（非公式プログラム）が行われたヴロツワフ市立図書館。



分科会委員で記念撮影



IFLA総会にも参加。団長代理として投票しましたが、大変に緊張しました。

IFLA総会



ヴロツワフ市内には、いたるところに小人の像があります。

資料保存

大島薫

(収集書誌部司書監)

資料保存分科会常任委員 /
資料保存戦略プログラム (PAC)
アジア地域センター長



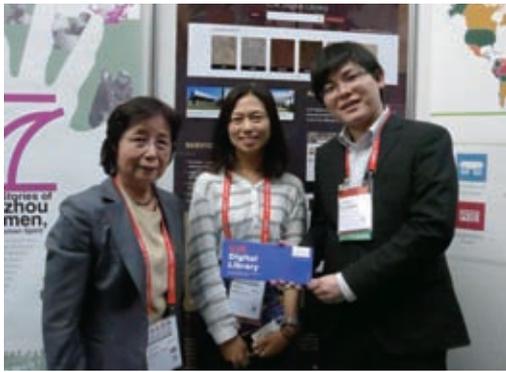
NDL はIFLAの資料保存に関する戦略プログラム PAC のアジア地域センターとして、アジアにおいて中心的な役割を果たしています。

今後、アジアの図書館にどのように貢献していくのか、研修生受入の体制の整備を含め、引き続き取り組んでいかなければならない課題であると感じました。



市内から IFLA 会場までは tram で通います。IFLA 参加者は、名札をさげていけば tram が無料！ tram の中では「首からさげている赤いのはなんなんだ」とよく聞かれました。

ポスターセッション



韓国国立中央図書館の金さん、羽入館長と。

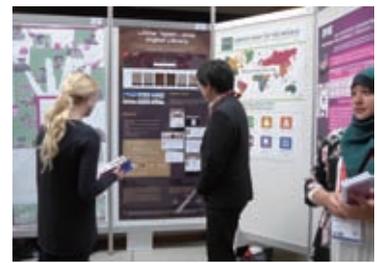
日中韓の文化・学術資源を対象としたポータルサイトの構築について、韓国国立中央図書館主務官のキム・ヒョノク（金賢玉）さんとポスター発表を行いました。

こうした地域統合ポータルは欧州でのヨーロッパの取組みが有名ですが、こちらは日中韓3か国の国立図書館による取組みです。

会場を訪れた各国の図書館関係者から、メタデータのリンク・データとしての公開や将来の地域統合ポータル間の連携の可能性など様々な質問を受け、大いに刺激を受けました。

町屋大地

(電子情報部電子情報サービス課)



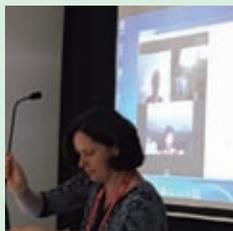
50 国から 188 点のポスターが参加。

私は、この夏、常任委員デビューを果たしました。初めての常任委員会の会合には、Skype（ウェブ会議）を通じて日本から参加しました。会合では、新任委員の紹介（名前を呼ばれ、手を振って応えました!）やこの一年間の分科会の活動報告、進行中のプロジェクトへの参加の呼びかけ等がありました。Skype では、ところどころ音声がかきこえないハプニングもありましたが、チャットによる会話も行いつつ、なんとか話題についていくことができました。積極的に議論に参加するには、"face-to-face" が一番ですが、今回、画面越しでも、会場の活発な雰囲気を感じることができました。

柴田洋子

(収集書誌部収集・書誌調整課)

目録分科会常任委員



Skype を通じて
ミーティングに参加中!
(写真画面内下)

書誌・目録

津田深雪

(収集書誌部収集・書誌調整課)

書誌分科会常任委員



全国書誌の整備が追いつかない国や地域のために、また図書館内外の様々な立場のユーザに使っていただくために、書誌分科会では全国書誌のコモンプラクティスを鋭意作成中です。私も新たに編集担当に加わりました。

今年の書誌・目録関連トピックのうち、目玉の一つは IFLA-LRM (Library Reference Model) のお披露目でした。IFLA-LRM は、いわば、利用者目線で、図書館の目録データに求められる機能や役割についてモデル化されたものです。今後、この新しいモデルを採り入れた図書館の目録サービスが広がれば、利用者の皆さんに、自分が必要な情報や資料をより効率的に検索・入手していただけるのではないかと期待しています。



オソリネウム図書館の敷地内で VIAF 評議会会議が開催され、典拠データを提供する各国の機関が集まりました。

IFLA東京大会 in 1986

1986（昭和61）年8月24日から29日まで、IFLA東京大会が開かれました。日本で開かれたのは初めて、アジアでは1980年のマニラに次いで二度目でした。

IFLA国内委員会、日本図書館協会が主催し、NDLは後援団体として協力しました。NDLがホストとなって、CDNLと議会図書館分科会を開催。そのほか、分科会の懇談会・見学会や、参加者向けの施設見学会、地図の展示会などを開催しました。

NDLとしては、9月1日に新館全面開館を控え、9月12日には館長が交代するという、非常に慌ただしい時期でした。できたばかりの新館をこのような一大イベントで披露できたのは誇らしかったかもしれません。

大会のテーマは「21世紀への図書館」でした。当時の本誌によると、議会図書館分科会の館内見学では『電子計算機室』に強い関心が集まったそうです。このとき議論されたこと、期待されたことは、21世紀になった今、どのように実現しているでしょうか。

※310号（1987年1月号）



データ入力の様子を見学



26日に議会図書館分科会。テーマは「議会図書館を結ぶ国際コミュニケーションの将来」



27日に国立図書館長会議（CDNL）。30か国の館長もしくは副館長が参加



大会参加者のための見学会。各国語別の案内を用意しました



江戸期地図の展示会



地図・地誌分科会参加者との懇談会

What's 書誌調整

第11回

変わりゆく全国書誌データ提供 ——使えるデータであるために

こんにちはワン、カーネ（CANE）です。

1月からNDL-Bibっていうものができたみたいだけど、一体なんだろう？
書誌データに関係があるみたい。先生に聞いてみよう！



カーネ

全国書誌とは？

先生：やあ、カーネ。新しくなったばかりのサービスにやうきつきましたね。では今回は、NDL-Bibで提供する書誌データの基盤となる「全国書誌」について勉強しましょう。

カーネ：はい。ぼく全国書誌って、聞いたことあるよ！日本で出版された出版物ぜんぶのリストのことだよな。本屋さんいくところいつも新しい出版物がでているから、すごい量になるよね。

先生：そうですね。でも実はそれ以外にも、会社の社史や美術館の図録のように一般の書店では売られていない出版物もたくさんあるんですよ。それらも含めて、日本で出版された出版物をものなく国立国会図書館（以下NDL）が集めるよう、国立国会図書館法で定められているんです。そうやって収集された出版物の記録が全国書誌です。世界各国でも、主に国立図書館がそれぞれの国の出版物を集めて、全国書誌を作って国民に知らせているんですよ。

カーネ：へええ。それって僕でも見られるのかなあ？

資料を探すために

先生：カーネは、国立国会図書館サーチ（以下、NDLサーチ）や国立国会図書館オンライン等を使って、図書や雑誌を探したことがあるでしょう？

カーネ：はい！

全国書誌データの提供方法の変遷



全国書誌は長らく冊子体として刊行されていましたが、現在では、データそのものを提供するよう、提供方法が変わってきています。これにより、システムに取り込んで蔵書の管理に活用したり、また、利用者が自分でリストに加工したりしやすくなりました。また、全国書誌データを迅速に入手したいというニーズに応えて、出版物がNDLに到着してから約4日後に、作成中の書誌データを新着書誌情報として公開しています。

先生… そうしたサービスのベースになっているのが全国書誌データなのです。カーネも知らない間に使いこなしているんですよ。もちろん1月にサービスを開始したNDL-Bibも同様です。

そういえば、カーネは近所の図書館の蔵書検索システムも使ったことがありますよね。もしかするとそのシステムでも全国書誌データが使われているかもしれません。

カーネ… NDL以外の図書館でも全国書誌データを使うことがあるの？

先生… はい。全国書誌データを利用することで、各図書館では一から目録を作成する手間が省けます。分類等も付与されていて情報量が豊富なんです。

図書館システムでの全国書誌データの利用方法

カーネ… へええ。じゃあ、図書館ではどうやってそのデータをもっているの？

先生… 図書館の蔵書管理システムで全国書誌データを利用する方法は、次の2種類があります(次ページ参照)。

カーネ… ふんふん。図書館で働く人にとっては、全国書誌データが簡単に利用できるようになったんだね。

先生… 便利になったのは図書館システムだけではないんです。NDLサーチのページでは、個人のパソコン上でも使える、APIを利用した便利なツール等を紹介しています。APIというと難しいですけど、プログラミングがでなくても、こうしたツールを使えば簡単に文献リストを作成することができます。

カーネ… 僕でもできるかな？ 試してみるワン!!

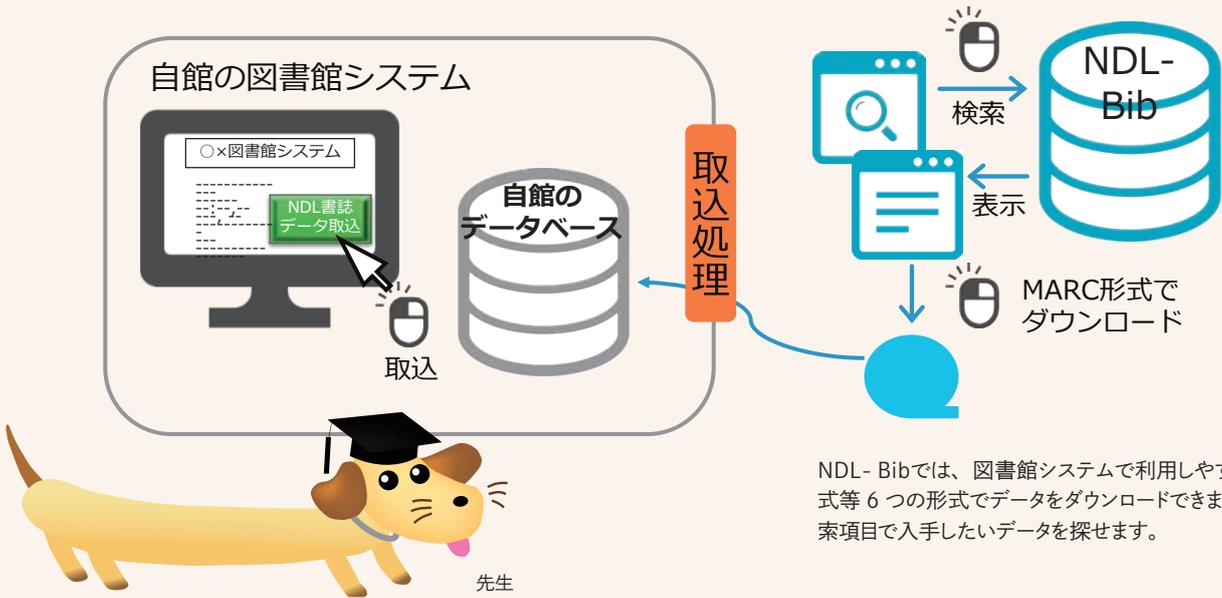
図書館からウェブの世界へ

カーネ… ところで先生、ウェブ上で読める本も全国書誌データに入っているの？

先生… NDLが収集したものを「全国書誌(電子書籍・電子雑誌編)」として公開しています。今のところ、件数は限られていますが、対象は徐々に増えていくでしょう。

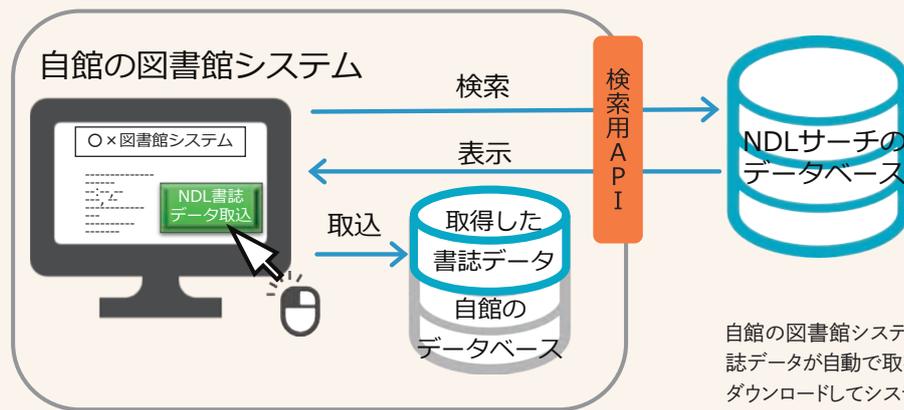
図書館で扱う資料の範囲がウェブ上の情報に広がることも、書誌データの形も変化しつつあります。書誌データを図書館間で交換する際には、長らくMARC形式が利用されてきましたが、最近では、図書館の世界にとどまらず、ウェブ上で広く書誌データを共有しようという取組みが進んでいます。そこで、NDLサーチの書誌データも、より多くの機関にとってウェブ上で共有し、再利用しやすいようLinked Dataを提供されています。NDLのホームページにも詳しい解説が

NDL - Bibからのダウンロードファイルを利用する場合



NDL - Bibでは、図書館システムで利用しやすい MARC 形式等 6 つの形式でデータをダウンロードできます。多様な検索項目で入手したいデータを探せます。

NDLサーチの API に対応した図書館システムでデータを利用する場合



自館の図書館システムを検索すると、NDL サーチの全国書誌データが自動で取得されます。図書館の職員がファイルをダウンロードしてシステムに取込む手間がかかりません。

ありますので、読んでみてください^④。

カーネ：はい。

先生：全国書誌データは日本の出版状況、ひいては社会や文化活動を反映する鏡のような存在です。新しい出版形態や技術の進歩にあわせて、これからも、全国書誌データの形や提供方法は、変化し続けることでしょう。

カーネ：全国書誌データは、図書館で本を探す人にも、図書館で働いている人にも、ウェブ上で資料を探す人にも、役に立つんだね。先生、ありがとうございました。

(収集書誌部収集・書誌調整課 篠田 麻美)

- 1 NDL-Bib の「全国書誌データ提供サービス」の画面 (https://ndl-bib.ndl.go.jp/F?func=find-c-0&local_base=gu_nz) で、「全国書誌」に日付を入れて検索すると、その日に書誌作成が完了した書誌データの一覧が表示されます。
- 2 以下の URL で、Microsoft Excel 等を利用したツールを紹介しています。国立国会図書館サーチリンク集 > 2. 図書館職員向けツール (<http://iss.ndl.go.jp/information/link/#2>)
- 3 全国書誌 (電子書籍・電子雑誌編) には、①オンライン資料収集により 2013 年 7 月 1 日以降に NDL が収集した、インターネット上で公開された電子情報で、図書や逐次刊行物に相当するもの (現在は無償かつ DRM (技術的制限手段) のないものが対象)、②国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 (WARP) で収集された公的機関等のウェブサイトから白書、年鑑、報告書を切り出したもの、のメタデータが収録されています。
- 4 使う・つなげる：国立国会図書館の Linked Open Data (LOD) とは (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/standards/lod.html>)

本屋に

ない

本



日本のスズメの歴史

The history of the tree sparrow in Japan

田口文男 著
2015.8 668p 図版 26p 27cm
<請求記号 RA567-L174>

我々にとってスズメは非常に身近な鳥の一つであろう。国立国会図書館東

京本館の周辺でも頻繁にその姿を見ることが出来る。本書はそんなスズメが主に日本の文化の中でどう取り上げられて

いるかを研究した一冊である。668ページもの大著であるが、著者はたった一人で

これを書き上げており、日本語の本文のほか、英文も記述されている。またインターネット検索を駆

使して調査が進められており、ウィキペディアから図書館のアーカイブ、学術論文リポジトリまで、引用が頻繁にな

さされている点も本書の特徴である。研究の対象は農業、地名、郷土玩具

といった民俗学的なものから歴史書、詩歌、絵画、音楽、さらには生物学、生態学に至るまで非常に多岐にわたる。

家紋や店名、酒の銘柄、新聞の投書等、非常に細かな知識まで扱われているが、本書で紹介されている、『源氏物語』の「雀の子を犬君が逃がしつる」の一説は学校の授業で学んだ人も少なくないだろう。

本書を読んで感じられるのは、著者のスズメに対する並々ならぬ情熱である。とにかくあらゆる分野においてスズメに関連する事柄を探し出し、それぞれに詳細な説明が施されている。また日本各地に足を運び、時には外国にまで旅し調査を進める。著者が実際に全国を飛び回り蒐集したコレクション

がカラー写真入りで紹介されており、その熱意が実感できるとともに、これほどまでにスズメに関するものが存在するの

かと驚かされる。やはりそれほどスズメは日本の文化に深く根付いているということであろうか。

著者はスズメ研究という趣味のおかげで多くの人々と友人になることができたことを「雀の恩返し」だと語る。本書はスズメに関する資料集的な性格を持ち、スズメが好き

な人、スズメ研究をしたいと考えている人にとってはもちろん重要な価値のある本であろう。しかしそうでない人にとっても、趣味を究めることの面白さ、奥深さやその過程での出会いの大切さといったもの

を感じる事ができる一冊である。なお本書で取り上げられているスズメ関連の絵の中には、「国立国会図書館デジタルコレクション」から引用されているものも少なからずある。これらの資料は当館ホームページからアクセスし、自由に見ることが出来る（歌川広重「山茶花と雀」、毛利梅園「梅園禽譜」等がその一例である）。一職員の立場としては、こういった調査研究に当館の資料が活用されていることはとても喜ばしく光栄に思う。図書館資料を収集し広く公開していくという当館の使命が実感され、身が引き締まる思いである。

（青木虎徹）

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

国立国会図書館月報 682号 2018.2

NDL Topics

関西館小展示（第23回）「犬も歩めば本になる —歴史から研究・物語まで—」

古来、私たち人と共に生きてきた犬。

第23回の関西館小展示では、人と深く関わってきた犬の様々な側面をご紹介します。

最初に人と暮らし始めた動物として、犬は、人から影響を受けて今の犬になり、一方、人もまた犬を愛し、影響を受けてきました。犬と人の紡いできた歴史、犬が人と暮らすことで獲得してきた多様な形質、飼い犬と人の暮らし方の変遷はもちろんのこと、生物学や医学的な犬の研究、盲導犬や警察犬からタレント犬まで色々な職業で人のために働く犬、古今東西の作家が描いてきた犬に至るまで、身近だけれど奥深い犬という生き物について、本や雑誌約100点を用いてお伝えします。

成年である今年、本を通して犬に触れ、私たちと犬との関わりをご覧になってはいかがでしょうか。

○開催期間

2月22日（木）

～3月20日（火）

（日曜日を除く）

○開催時間

9時30分～18時

○場所

関西館閲覧室（地下1階）



前回の関西館小展示の様子



神坂雪佳 著『百々世草、第2巻』
山田芸艸堂、明治42
【請求記号 406-32】



川崎巨泉 画『おもちや十二支、乾坤』
だるまや書店、大正7-8
【請求記号 403-112】



高橋虎雄 著『犬の飼ひ方』
文化生活研究会、大正15
【請求記号 564-72】

国際子ども図書館講演会

「子どもの本よ、世界へ届け！」

—ミュンヘン国際児童図書館の目指すもの—

国際子ども図書館は、欧州の代表的な児童図書館であり国際的な児童書の研究センターとしても知られるミュンヘン国際児童図書館の館長、クリスチアーネ・ラーベ博士を招へいし、講演会を開催します。講演会では、世界の児童書・児童文学の振興や文学における多様性の保護を使命とするミュンヘン国際児童図書館の概要と、近年の取組をお話しいたできます。入場無料ですので、ぜひお申し込みください。

※講演はドイツ語で行われます（日本語の逐次通訳があります）。

○日時 2月25日（日）14時～16時30分

○会場 国際子ども図書館アーチ棟1階研修室1

○対象 中学生以上

○講師 クリスチアーネ・ラーベ博士

（ミュンヘン国際児童図書館館長）

○定員 130名（事前申込制・先着順）

○参加費 無料

○申込方法 電子メールでお申込みください。件名欄に「講演会参加申込」と記載し、本文に次の事項を記載してください。

①氏名（ふりがな）②ご所属 ③ご連絡先

※電子メールでのお申込みができない場合や、申込受付後1週間以内にお送りする確認メールが届かない場合は、次の問合せ先までご連絡ください。

※定員に達し次第、受付を終了します。

○問合せ先

国立国会図書館国際子ども図書館企画協力課

電子メール icli@kodomo.go.jp

電話 03(3827)2053(代表)

子どものための絵本と音楽の会

国際子ども図書館では、東京・春・音楽祭実行委員会との共催で、「子どものための絵本と音楽の会」を開催します。ピアノとコントラバスの演奏にあわせて、西内ミナミ(作)、堀内誠一(絵)の絵本『ぐるんぱのようちえん』の朗読を楽しみます。入場は無料です。

○日時 3月25日(日) 13時30分～、15時～

(各回約30分)

○会場 国際子ども図書館 レンガ棟3階ホール

○出演 語り・朗読：西山琴恵 ピアノ：秋場敬浩

コントラバス：岡本潤

○対象 3歳から中学生までの子どもとおおよびその保護者

*原則として子ども1名につき保護者1名

○定員 各回100名程度

*申込多数の場合は抽選。当落にかかわらず3月

13日(火)までにご連絡します。

○申込方法

東京・春・音楽祭ホームページ上の申込フォームからお申し込みください。

*申込受付期間 2月1日(木)～2月28日(水)

○申込み・問合せ先

東京・春・音楽祭実行委員会「絵本と音楽の会」係

ホームページ <http://www.tokyo-harusai.com/>

電話 03(5205)6497

新刊案内

外国の立法 立法情報・翻訳・解説 第274号

イギリスの2010年アカデミー法

イタリアにおける「大都市」設置等の地方団体の見直し

—2014年法律第56号を中心に—

韓国の国際疾病撲滅基金法

中国の国家情報法



A4 75頁 季刊 1,800円(税別)
発売 日本図書館協会
ISBN 978-4-87582-806-8

レファレンス 803号

ヨーロッパ君主国における王位継承制度と王族の範囲

—女系継承を認めてきた国の事例—

トランプ政権の国防予算

2000年代以降の在欧米軍再編の動向

—ロシアによるクリミア併合後の態勢強化を中心に—

ネットワーク中立性をめぐる議論

米国における都市農業の動向(現地調査報告)

カレントアウェアネス 334号

オープンアクセスに関する中国の取組と科学技術雑誌

の実態

ラテンアメリカのオープンアクセスとJReferencia

図書館向けデジタル化資料送信サービスの統計に見る

開始から3年の状況

図書館向けデジタル化資料送信サービスの利用状況

—京都市右京中央図書館の事例—

図書館向けデジタル化資料送信サービスの利用促進の

取り組み

—静岡大学附属図書館の事例—

国立国会図書館によるベトナム国会図書館支援の取組



A4 24頁 季刊 400円(税別)
発売 日本図書館協会



A4 124頁 月刊 1,000円(税別)
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

新副館長就任

網野光明国立国会図書館副館長が平成29年12月25日付けで退任し、同日付けで坂田和光が副館長に任命されました。



坂田和光副館長

おもな人事

平成29年12月25日付け

△辞職▽

副館長

網野 光明

△異動▽ ※（ ）内は前職

副館長（専門調査員 調査及び立法考査局長

坂田 和光

調査及び立法考査局長、収集書誌部長兼務（収集書誌部長

大曲 薫

平成29年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

平成29年11月27日、国立国会図書館東京本館において標記の懇談会を開催しました。これは、各府省庁と最高裁判所に置かれた支部図書館の充実に資するため、支部図書館長等を招いて毎年行っているものです。支部図書館26館、分館4館から、46名の支部図書館長、支部図書館職員が参加しました。

今回は、公的部門の情報発信が紙からデジタルへと比重を移している現状を踏まえて、国立国会図書館（中央館）から、中央館のデジタルアーカイブについて、デジタルコレクションを中心に報告を行い、「デジタル資料の保存や発信について支部図書館と現状と問題意識を共有しました。」

支部図書館からは、中井雅之支部厚生労働省図書館長が、同館の概要と取組について報告し、EBPM（証拠に基づく政策立案）について問題提起しました。

また、尾城孝一氏（国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター特任研究員）が、「機関リポジトリの思想と実践」と題し、機関リポジトリの現状や今後の展望・課題について、日本のデータ登録の現状や、オープンアクセスリポジトリ推進協会などの組織的な取り組み、海外の状況などを紹介する講演を行いました。



平成29年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会

平成29年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

平成29年12月8日、東京本館において標記の懇談会を実施しました。これは、国立国会図書館が、国公私立大学図書館協力委員会委員館の図書館長および関係機関の代表者を招いて毎年行っているものです。

今年は、田中久徳総務部長から「国立国会図書館の最近の主な取組」、竹内比呂也千葉大学副学長・附属図書館長からは「オープン化の時代の学術情報基盤と大学図書館」と題した報告がありました。

その後、電子出版物の納本と長期保存、効率的なデジタル化の方法、デジタル資料におけるナショナル・プラットフォームの必要性、情報環境の変化に対応した情報の保存と発信、国立国会図書館による動画の収集、国内文献の保存と提供に関する大学図書館と国立国会図書館の連携、大学図書館における絶版等資料のデジタル化など幅広い内容について、質疑、意見交換が行われました。



平成29年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会

国立国会図書館 開館70周年



過去を読み、
未来を読む。

Read the Past, See the Future

記念イベント

2018年アジア太平洋議会図書館長協会
(Association of Parliamentary Librarians of Asia and the Pacific = APLAP)
東京大会 ※協会加盟機関代表等による会議です。

記念展示会

本の玉手箱
— 国立国会図書館70年の歴史と蔵書 —

記念シンポジウム

支部図書館制度創設70周年
納本制度70周年

2

NATIONAL
DIET
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2018.2

NO.682
FEBRUARY
2018

CONTENTS

- 01 <Book of the month - from NDL collections>
Hyakka zensho Taisō oyobi kogai yūgi published by the Ministry of Education:
Curling in 1879
- 04 The dawn of Japanese book illustration
—National Diet Library Exhibition “The World of Japanese Book Illustration”
- 16 Browsing library materials — Reading Japanese written in variant kana 2
Names of fish hidden in poetry
- 21 World Library and Information Congress:
83rd IFLA General Conference and Assembly
- 27 What’s bibliographic control? Revisited (11):
National Bibliographic Data in transition: Providing useful data
- 15 <Tidbits of information on NDL>
The inside story of the National Diet Library Exhibition “The World of Japanese Book Illustration”
- 30 <Books not commercially available>
Nihon no suzume no rekishi
- 31 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

平成30年2月号 (No.682)

平成30年2月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 秋山勉
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<http://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
L I B R A R Y
M O N T H L Y
B U L L E T I N
2 0 1 8 . 2

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan

